
俺と野球と学園生活

グレイプニル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と野球と学園生活

【著者名】

N4151H

【作者名】 グレイプール

【あらすじ】

これは、私立龍神学園野球部を舞台にドタバタ野球コメディです。

プロローグ（前書き）

初めて書く小説です。
文章構成もまだまだですが、何卒よろしくお願いします。評価お
願いします。

プロローグ

朝、俺はケータイのアラームで目覚ます。

今日から高校に入るということもあり、いつもより早めに起きた
ハズだった。俺は目を疑った。

現在時刻 9：16 分…

なんで!? アラームをセットしたのは 7：30 の筈、なのに。
ーんと頭抱えていると、ケータイが鳴った。相手を見ると成瀬 有ゆう
華かと表示されていた。

出た方がいいんだろうなと思い、通話のボタンを押す。

「あんた、何時まで寝てるのさー？」

「何時つて…、朝まで？」

「学校どうすんのさー! もう、入学式始まるよー！」

「わかったわかった。とりあえずこれから行くから

「さっさと来なさいよ」

ブツツ、ツーツーツーと、勝手かけて、勝手に切られた。俺のタ
ーンは無視ですか? お姉さん。 とりあえず着替えて、学校へ行く
準備をする。 なんかだんだんメンンドくさくなってきたぞ。サボる
うかなあ。 ちょっと有華の反応を見てるために、メールを送つて
みる。

「サボつていいかな?」
すぐ返ってきた内容が

「サボつたら、「口スよ」

アイツがいうことは半分マジだ。 いうこともあり、俺は即座に
学校へ行く準備を済ませる。

このせい、朝メシを食つて いる暇はない。

プロローグ（後書き）

次からいろいろありますので見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4151h/>

俺と野球と学園生活

2010年10月22日00時43分発行